

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
404	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Trend of alcohol involvement in maxillofacial trauma 飲酒に関連した顎顔面外傷の推移について	
執筆者	
Lee K.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod. 2009 Apr;107(4):e9-13. Epub 2009 Feb 8.	
キーワード	
顎顔面外傷、飲酒、入院、暴力行為、交通事故	
要 旨	
<p>目的： エタノールは様々な社会状況で各人が飲んでいる。その一方、入り浸ることで誤った判断をしたり、身体に有害であったりする。この研究は飲酒に起因する顔面骨折について3次医療機関で連続した2期間において推移を調べたものである。</p> <p>方法： クライストチャーチ病院の顎顔面外科を受診した患者のデータを11年分後ろ向きに調査し、前半後半に分けて各5.5年分を比較した。</p> <p>結果： 飲酒に関連した顔面骨折は全体で1,264名確認され、前半は624例、後半は640例であった。90%以上が男性で、各々の期間で15-29歳の年齢層が66%を占めていた。暴力行為によるものが前半で73%、後半が82%であり、車両事故によるものが各々18%、8%であった。前半では64%が入院を、58%が外科治療を要し、後半では入院は66%、外科治療は60%であった。</p> <p>結論： 前半後半を比較して人口統計学、骨折の種類、治療法に有意な違いは認めなかった。暴力行為に起因した骨折が増加し、車両事故による骨折が減少していた。若い成人男性において飲酒に関連した喧嘩による骨折は主な課題のままであった。この層に飲酒の有害作用について教育するという公衆の認識が必要である。</p>	